

# 理科(物理・化学・生物・地学) 立命館大学 全学統一方式 (2/2実施)

## <全体分析>

試験時間 80 分

### 解答形式

選択(マーク), 記述, 計算

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

### 出題の特徴や昨年との変更点

理論, 無機, 有機とバランスよく出題されている

### その他トピックス

例年, 大テーマをもとに, 多角的な内容を取り扱っている。

## <大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 記述 計算	イオン結晶 限界半径比	化学	塩化ナトリウム型結晶構造を題材に, 融点, 電気伝導性, イオンの大きさ, 炎色反応, 沈殿の色, 塩析, 密度, 結合距離, 限界半径比など多角的な内容である。	標準
II	選択 記述 計算	酸化還元反応 酸化還元滴定 電気分解	化学	酸化還元をテーマに, 溶液の色の変化, 酸化数, ヨウ素滴定, 電気分解などを含んだ内容である。	標準
III	選択 記述 計算	異性体 分離 エステルの構造決定	化学	C <sub>4</sub> H <sub>10</sub> O の構造異性体, 分子の形と沸点, 有機混合物の識別, 脂肪族エステルの構造決定, 中和滴定によるカルボン酸の濃度計算, 凝固点降下度によるカルボン酸の分子量計算, アルケンの付加反応などの内容である。	標準
IV	選択 記述 計算	天然高分子 合成高分子 元素分析	化学	天然ゴム, ナイロン 66, 熱可塑性樹脂をテーマに不斉炭素原子の数, 計算, 元素分析から構造式の決定などの内容である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

1. 理論・無機・有機をまんべんなく学習しておくこと。
2. 化学用語や定義を正確に理解しておくこと。
3. 基礎的な事項を十分整理してマスターしておくこと。
4. 標準的なレベルの問題を数多く行っておくこと。
5. 実験装置・操作についても, 注意しておくこと。